

コミュニティ だより

徳島市
徳島市コミュニティ会
連絡協議会

〒770-8571
徳島市幸町2丁目5番地
TEL (088) 621-5510
FAX (088) 621-5511

国府の町づくり & 活性化に向けて

国府コミュニティ協議会 勝間 健二

平成二十二年十二月一日に、徳島市都市政策課主催で市の全体構想や地域の町づくり構想を作成するため、国府、南井上、北井上、不動産地区の各

コミュニティ協議会の関係者が出席し、将来の町づくりについて意見交換会が開催されました。

国府地区からは、国府町全体の将来における産業の振興の核となる「道の駅」（直売所、加工所、レストラン、物産館、防災機能など交流拠点施設の設備）の必要性を提案させていただきました。

国府町の町づくり活性化を



ウォーキングチェックポイント風景

西環状線等）の立地条件にも恵まれ、何よりも、昔から脈々と受け継がれてきた「つながり」「和」「絆」が国府にはあり、地域住民が一丸となり地域活性化にかける熱意と人材（力）を持っています。徳島市（国府）に「道の駅」を設営することは、幅広く様々な分野でビジ

ネスモデルを芽生えさせるとともに、各地域（他町）との融合・連携・協働につながり、地域に新たな鼓動を導く極めて有効な施策であると確信しています。国府住民は、自らが暮らす地域のあり方について、自らが考え主体的に行動し、その行動と選択に責任を負うという住民主体の発想に基づいて「町づくり」に取り組んでまいりたいと考えています。



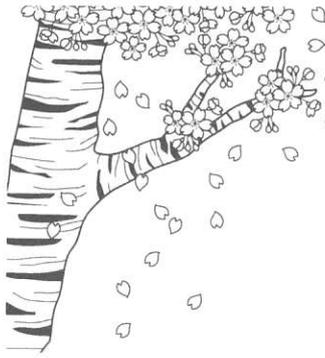
こども国府探検隊

図るため「心ふれあう未来をつくる町づくり」をキャッチフレーズに掲げ、将来を担う子どもたちに自分たちの住む地域に自信と誇りと愛着を持ってもらうことを目標として「ウォーキング&サイクリング」、小学校との連携による「こども国府探検隊」、「出前授業」、「コスモスの植栽」など実施しました。



コスモスと園児

の発案により国府コミュニティセンターで募金箱を設けていたことが、国府町（国府、南井上、北井上）全地域へ募金の呼びかけが広がり、人と人の「つながり」や「信頼」「助け合い」や「思いやり」の気持ちが出来上がっていることを痛感しました。私たち住民が、地域振興や活性化にかける熱意を十分おこみとりいただき、第四次徳島市総合計画の基本計画に「道の駅構想」を掲げていただけますよう切にお願い申し上げます。



大岡川沿岸にさくらを植樹

フラワーロード
—美しい花木の道に—

住吉・城東地区町づくり協議会会長 芝 正 裕

三月五日は、桜を植樹する
待望の日であった。厳冬は、
三月になっても尾を引いてい
たが、この日は快晴。暖かい
光が一面に降り注いだ。住吉
一丁目から六丁目、城東一、
二丁目の町内から大勢の方々
が集まった。春の芽吹く勢い
と、自分たちの手で桜を植え
ようとする意気込みが強く感
じられた。

大岡川は、石垣で護岸され、
川の風景が一変した。しかし、
大岡川橋から神明橋にいたる
東岸に、幅三メートル、長さ



城東小学校児童植樹

境を損ねていた。隣
接する住民から何と
かならないかとの声
があった。町づくり
協議会でも、当地に
は公園がなく、この
空き地に公園風のさ
くら緑地をつくって
はどうかとの意見が
高まってきた。地域
の要望をふまえ、徳
島県東部県土整備局
と話し合うことになっ



一般住民の植樹

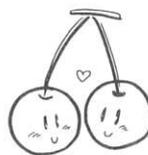
た。
いろいろな問題や
条件があった。植樹
が堤防を壊さないか。
施肥、消毒、除草等
将来にわたる世話が
できるか。運営上の
問題にしっかり対応
できる組織であるか。
土木工事分野と植栽
活動との役割分担。
協定書の交換。平成

二十二年度内での荒地の整備。
懸案を次々に解決し十分に準
備を整え三月五日の植樹を迎
えたわけである。整
備局のおとりはから
いにも感謝したい。

当日、大西章英氏
は、「子どもたちに
美しい自然を残すこ
とができる。桜が咲
くのが待ち遠しい。
ボランティアの一員
となって水をやり桜
を育てたい」と植樹
の喜びを述べられた。
各町内会で八本、



ぜんざいのつぎ分け



城東小学校児童たちで一本、
町づくり協議会で一本、合計
十本の苗木を心を込めて植え
た。桜は八重桜系の紅豊とい
う品種で、日本の桜を代表す
る美しい花を咲かせる。一時
間半の心地よい作業を終え、
婦人部の皆さんがつくってく
ださったぜんざいを賞味した。
郷土愛を高揚させ地域の絆を
強くした桜植樹であった。

第17回六右衛門まつり

ー津田コミュニティだよりー

津田コミュニティ協議会



去る四月三日、出会い・ふれあい・助け合いをテーマに「第十七回六右衛門まつり」が津田みどり公園で開催されました。このまつりは、津田地区まちづくりや福祉向上の

ために計画され、今年で十七回目の開催になります。開催にあたり、去る三月十一日東日本大地震が発生し、それに伴う津波により広範囲にわたつての大災害になりました。また、福島原子力発電所からの放射能漏れも起こり、現在もなお多くの人々が影響を受け避難生活を続けています。このような時期において「六右衛門まつり」どころではないという意見もありましたが、まつりのテーマに「助け合い」という目的もあり、この際「まつり」を止

田中学生による吹奏楽を実施)で始まり、バザーや焼きそば、うどん等の売店の他、地元郵便局からは切手の販売、後援をいただいた、徳島県木材団地協同組合連合会からは、木材や道具の提供があり、簡単な本立てやいす作りに親子で多数の参加がありました。



めてしまうのではなく、町の活性化とともに、震災支援チャリティ行事として開催することとしました。まつりは、徳島県警察音楽隊によるオープニングセレモニー(今年度は震災のため津

子ども舞踊、小学生による和太鼓や吹奏楽、西富田公民館長の岩佐重明先生には腹話術で会場を楽しく盛り上げていただきました。中でもまぐろの計量クイズは毎年大変な人気で、まつりの最後に行われる抽選会とともにこのまつりの大きな目玉となっています。



から義援金を賜りましたことにお礼を申し上げます。なお、参加・入場は無料ですので、次回には多くの市民の方のご来場をお待ちしております。

終わりにりましたが、震災支援チャリティとして実施したこのまつりに、多数の方々





旧正月の子ども餅つき大会



東富田コミュニティ協議会



当協議会では、子どもの育成を大きな活動目標の一つに立てて実践をしています。正しい社会性を身に付け、逞しく生きる子どもを育てることが、明るく住み良い街作りにつながることにしたいと思っております。礼儀作法を身に付ける活動、昔の生活を体験する活動、昔から当地に伝わる伝統文化行事を体験する活動です。今年もこの活動の一つである「子ども餅つき大会」を地域各種団体や諸機関の協力を得て、二月十三日に実施しました。毎年旧正月の時期に実施しているものです。

この行事は、平成十六年から始め今回で八回目になりましたが、近年、子どもの生活様式が大きく変わり、昔、家庭や地域社会で活発に行われていた季節ごとの伝統行事が無くなり、人との交流する場が少なくなっていることから、昔の生活を体験させたり、地域の皆さまと交流させることを目指したものです。この行

臨江寺について

佐古コミュニティ協議会
郷土史研究家

三浦圭介

事は、回を重ねるごとに多くの子どもたちが参加するようになり、今回は、地元の子どもたち百五十名と総勢二百五十名の参加があり、地域あがりの伝統行事になってきています。特に、学習塾や部活動などで地域行事に参加する機会が少なくなっている中学生も五十名ほどの参加がありました。

三台の臼を使って、朝九時からつき始め、昼前までに五十臼近くをつきあげました。中学生は大人並みのつき手、もみ手として、また、小学生や児童は、子ども用杵を使っの体験をしました。参加者はつきたての餅をおなかいっぱい食べ、また、帰りには家族へのお土産をもらい楽しい体験ができたようです。

臨江寺
住所 徳島市南佐古一番町二
本尊 聖観音像
宗派 臨済宗妙心寺派
住職 小熊啓史氏
最初、一六〇五（慶長十）年曹洞宗の僧明堂が藩主蜂須賀至鎮より当地を与えられ、牛蒡庵という一庵を建てた。その後、一六二五（寛永二）



白雲院の墓

年蜂須賀正勝の側室白雲院を葬り、また一六四四（正保元）



宝珠院の墓

年に蜂須賀家政の妹宝珠院（黒田長政夫人、離婚し徳島

(在)が生母白雲院と自身の菩提寺として興隆を図り、藩主忠英に請うて寺領二十石を与えられた。その後、寺号を桃溪山臨江寺と改称、臨濟宗に転じたといわれ、寺勢は隆々に向かったが、宝暦(一七五一〜一七六三)以後次第に衰微していった。往時は南佐古一丁目から二丁目(常盤橋)に及ぶ広大な敷地に伽藍が立ち並び盛況だったらしい。境内には白雲院、宝珠院のほか須賀家と白雲院、宝珠院との

八万あじさい連の活動

八万中央コミュニティ推進協議会会長 露口 玲子

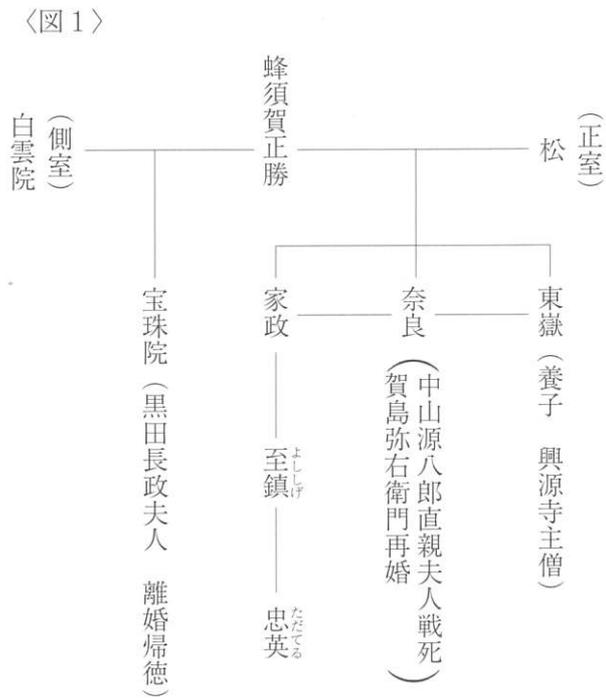


八万中央コミュニティ推進協議会は徳島市の「地域の力」まちづくり支援事業の援助によって、「八万あじさい連」と命名した阿波踊りの会を作りました。

年から発足しました。動機は徳島市コミュニティ連絡協議会からの「阿波踊り」用品をいただいたことに始まります。たくさんさんの阿波踊り用品が倉庫の中に眠っていたので利用できないかと考えました。

そこで、地域の人たちが「阿波踊り」を練習し、いろいろな行事に出演することにしました。八万町内会を通じて参加者を集め、八万中央コミセンで練習を重ねました。まず八万町体育祭に出演し、

系図は図1の通り。



練習風景

多くの人に喜ばれました。

平成二十二年には徳島市の「地域の力」まちづくり支援事業に助けられて、毎月二回の練習の他にイベントに参加しました。八月には市役所前の阿波踊りの棧敷に出演したり、体育祭やふれあい教室、ひまわり昼食会など団員は積極的に参加しました。三月末には反省と親睦をかねて眉山頂上の桜の下で踊りました。花見に来ていた一般の方も歓迎され一緒に楽しく踊りました。

平成二十三年度の「八万あじさい連」は二十二年度の反省をもとに、新しい計



棧敷での演舞

画を立てました。まず、参加者を地域を広く集め、昨年の事業の上に他地域と交流会を開催したり、地域外のイベントにも積極的に参加をすることにしました。今までの練習会場は八万中央コミセンでしたが、町内会の集会所を使い地域の人々の参加を望んでいます。また、小中学校や幼稚園にも訪問して子どもたちにも親しんでもらい阿波踊りを広めます。手薄な鳴り物教室にも良い指導者をお願いしました。これからは、地域の人々から一層愛される「八万あじさい連」に成長いたします。

シリーズ 名所・旧跡

国府町北井上地区旧跡 眞言宗蔵珠院「まいまい井戸」

北井上地区コミュニティ協議会 橋本清一

北井上地区（国府町芝原）眞言宗蔵珠院の境内にある「まいまい井戸」をご紹介します。

「まいまい井戸」は、側面に青石を積み重ねた渦巻き状で、直径六メートル、幅一メートルの通路で水をくみ上げられるように作られた、日本では数少ない珍しい井戸です。江戸時代後期天保（一八三〇〜一八四〇年頃）と思われるですが、創設年代は不明です。

形状は、鉢の内側を渦を巻くようになっており、降り下り水を汲む方法です。

「まいまい井戸」の名前の由来は、カタツムリを意味するもので、井戸の形状がその殻に似ていることから付いたそうです。

この形状の井戸は、かつて関東の武蔵野台地や伊豆諸島に多く見られましたが、その起源ははっきりしません。

東京都青梅市現存の井戸は

八一〇年）創

設との伝承を持ち、鎌倉時代迄には創設されたと考えられます。

東京都西多

摩郡羽村町五神に所在の

「まいまい井戸」は昭和

二十七年（東京府指定文化財史跡）、明

治十三年頃開発の東京都八丈

町大賀郷の「原町の井戸」

（昭和五十五年東京都指定文化財史跡）、埼玉県狭山市市

曾の「七曲井戸」、埼玉県狭山市堀兼の「堀兼の井戸」などが知られています。



現在、草が繁茂中ですが、渦巻き状の部分が「まいまい井戸」です。

近年発掘調査の成果などから十世紀以前には、この形状の井戸が掘削されたことが確実のようです。

徳島県では、蔵珠院の一例しか報告されておらず、貴重な文化遺産といえます。現在

では、土砂に埋もれ、所在のみとなっています。今後、発掘され、後世の知識や財産として大切にされていくよう願っています。

（参考文献・須藤茂樹氏）

編集後記

東日本大震災にあわれた方に心からお見舞い申し上げます。

このような時にあたり地域連帯感育成の大切さが痛感させられます。徳島市や地域は早くから町づくりを力を入れています。

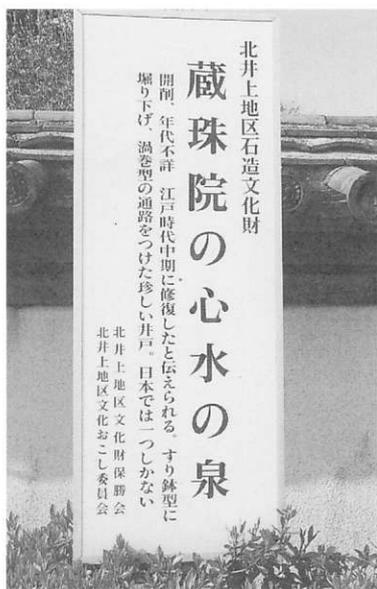
今月号には、各地の歴史と伝統をバックにした町づくりの活動を見事に紹介してくれました。

国府町は豊富な史跡を生かした「道の駅づくり」を図られようとしています。阿波の狸合戦の舞台、津田地区は盛大な「六右衛門まつり」を町民大集合の上、開催しています。旧正月行事として富田小学校校庭いっばいに「大餅つき大会」で子どもの育成を図っています。

八万地区のアイデアは、阿波踊り「八万あじさい連」の結成による町の活性化です。阿波水軍の町、住吉・城東地区は大岡川の桜堤の創出に町民が汗を流しました。徳島市の大エネルギーです。

佐古臨江寺の有名な黒田長政夫人宝珠院の墓があることや北井上蔵珠院の「まいまい井戸」は貴重な歴史紹介です。

（佐藤義忠 記）



蔵珠院の心水の泉

北井上地区石造文化財
開削年代不詳 江戸時代中期に修復したと伝えられる、ナリ鉢型に掘り下げ、渦巻型の通路をつけた珍しい井戸。日本では、つじかない

北井上地区文化財協議会
北井上地区文化おこし委員会

掘削時期不明で、近世段階で数回の改修が確認されているとされています。大同年間（八〇六）